

## 自己評価報告書

平成23年 5月10日現在

機関番号：11601

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520486

研究課題名 (和文) 国際語としての英語の音声理解及び内容理解に関する研究

研究課題名 (英文) A study of International Intelligibility and Comprehensibility of Englishes

研究代表者

松浦 浩子 (MATSUURA, HIROKO)

福島大学・経済経営学類・教授

研究者番号：70199751

研究分野：英語教育

科研費の分科・細目：外国語教育・教科教育

キーワード：国際語としての英語、intelligibility、comprehensibility

## 1. 研究計画の概要

本研究は、国際語としての英語の *intelligibility* (音声理解度) 及び *comprehensibility* (内容理解度) に影響を及ぼす要因を多角的に分析することを目標としている。具体的には、日本人が多様な母語話者及び非母語話者の英語を正しく理解するための言語的・心理的要件、また逆に日本人の英語を多様な言語の聞き手に正しく理解してもらうための要件について整理し、提言するために実証研究を行うものである。次の3点が課題として挙げられる。

- (1) 英語変種の音声理解及び内容理解を阻害する、または促進する要因を言語学的見地から解明する。
- (2) 英語変種の音声理解及び内容理解を阻害する、または促進する要因を言語態度研究の見地から解明する。
- (3) 英語変種の提示方法と①音声理解・内容理解、②言語態度の相関関係について調査する。結果を元に効果的な教材提示のあり方を提案する。

## 2. 研究の進捗状況

## (1) 課題(1)に関わる研究

①日本人大学生の英語を収録し、英語を母語とするアメリカ人大学生、第二言語として使用するフィリピン人大学生、外国語として学ぶ韓国人及び日本人大学生 (各国約40名) に聞かせ、ディクテーション・タスクを課したところ、4グループに共通して音声理解を最も損ねたのは

読み手側の単語の置き換えであった。一方で、アメリカ人被験者の一部は文脈から欠損情報を補うことができた。英語力に優れた聞き手ほどトップダウンによるリスニング・ストラテジーに優れていると考えられる。また、*suprasegmental* 面での逸脱は、*segmental* 面での逸脱に較べて、被験者の理解度を損なう傾向が全グループにおいて見られた。

②日本人学習者が英語を話す際に使いがちなカタカナ英語的発音、及び和製英語の語彙を含む英文をフィリピン人大学生グループ (英語を第二言語として使用する人々) と英語母語話者グループ (アメリカ人、イギリス人、カナダ人) を聞いてもらい、カタカナ英語発音については音声理解度を、和製英語については意味・内容の理解度を調べたところ、聞き取りにくい単語、意味が把握しにくい語彙は両被験者グループに共通であるという傾向が見られた。

## (2) 課題(2)(3)に関わる研究

約130名の日本人大学生に対して、英語を母語とするアメリカ人、及び広東語を母語とするホンコン中国人によって吹き込まれた英語を、話者のオリジナルスピード、及び速度を操作した調整スピードで聞かせ、主観的内容理解度、訛り、流暢さ、好みについて評価させた。主観的理解度と流暢さに対する評価は、調整スピードの影響を受けるものの、好みには変化が見られなかった。また、アメリカ英語では主観的理解

度が、ホンコン英語では主観的理解度と訛りに対する評価が、好みに影響を与えやすいという傾向が見られた。

(3) 課題(3)に関わる研究  
23年度に実施予定である。

### 3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

(理由)

上記研究計画の概要に挙げた3つの課題について年度ごとに具体的目標を立てて取り組み、それぞれの成果を国際学会や紀要等に発表している。3つ目の課題である英語変種の提示方法、音声理解・内容理解の相関関係については、現在、研究に着手したところである。

### 4. 今後の研究の推進方策

研究期間の最終年度である23年度は、世界の多様な英語変種を学習現場に導入する際には何が重要かを明らかにすべく、発話速度と理解度の関係に焦点を当てることにした。米国ケント州立大学のサラ・リリング准教授の協力のもと、南アフリカ、ガーナ、スリランカ、インド、ケニアなど、英語を第二言語として使用する人々の音声英語、かつ日本人学習者にはあまりなじみのない音声英語を収録し、発話速度をデジタル的に操作、速度の異なる音声刺激を日本人学習者に与え、速度が理解度にどのように影響するかを調べる予定である。成果は、WE2011などの学会大会にて発表予定である。

### 5. 代表的な研究成果

[学術論文] (計3件)

- ① Hiroko Matsuura & Reiko Chiba, Comprehensibility Judgment on Japanese Learners' English: The Case of Hong Kong Listeners. 商学論集 76 巻 4 号、3-19、2008 年、査読有
- ② Hiroko Matsuura & Reiko Chiba, Japanese Motivation and Intelligibility of English as an International Language. 商学論集 78 巻 2 号、15-26、2009 年、査読有
- ③ Hiroko Matsuura, Reiko Chiba, & Aya Matsuda, Evaluative Reactions to L2 English: American, Hong Kong Chinese, and Japanese Views. 商学論集 79 巻 2 号、27-38、2010 年、査読有

[学会発表] (計3件)

- ① Hiroko Matsuura & Reiko Chiba, Intelligibility of L2 English to American, Korean and Japanese Listeners. AILA2008. August 25, 2008. Essen, Germany.
- ② Hiroko Matsuura, international

Intelligibility of Japanese English, APEC-RELC International Seminar. April 20, 2010. Singapore.

- ③ Hiroko Matsuura & Reiko Chiba, International Intelligibility of Japanese English: The Case of *Katakana Eigo*. WE2010. July 25, 2010. Vancouver, Canada.